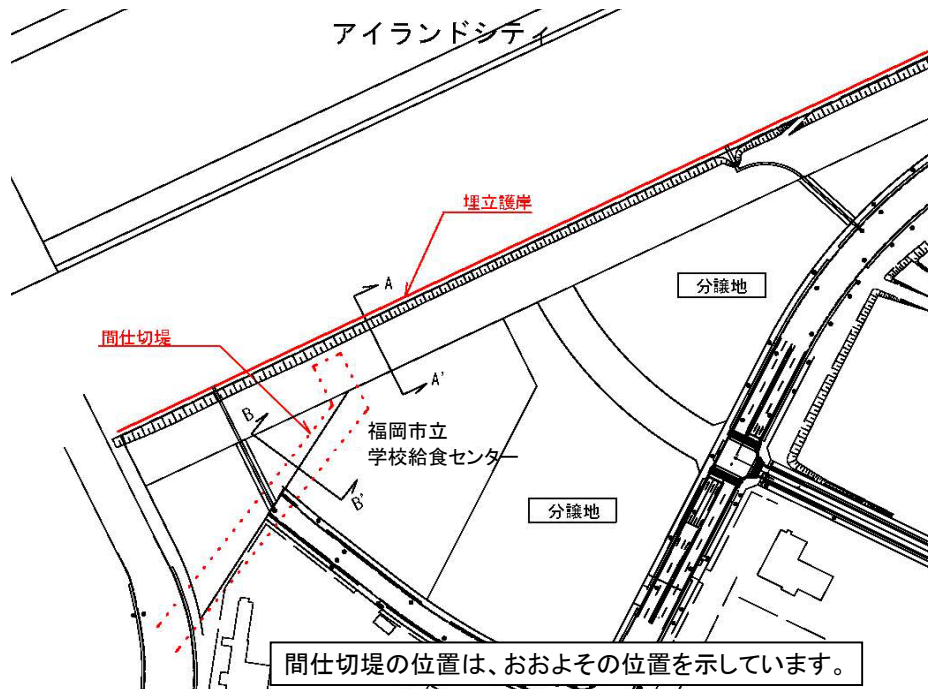
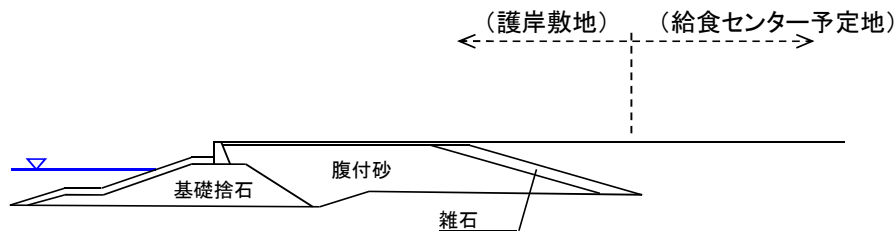


埋立護岸・間仕切堤の位置等について

【埋立護岸・間仕切堤の位置】

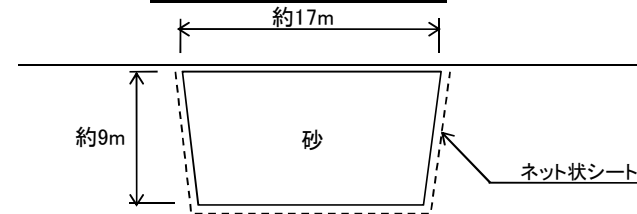


A-A' 埋立護岸構造図



埋立護岸と福岡市立学校給食センター整備予定地との位置関係は目安ですので、詳細につきましては、事業者にて現地調査を実施のうえ、ご確認ください。

B-B' 間仕切堤構造図

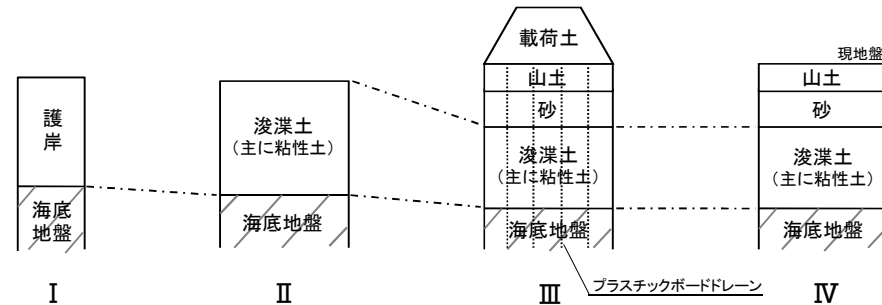


上記構造図は設計断面ですので、実際の施工断面と異なる可能性があります。

【参考】埋立工事の経緯

■埋立・地盤改良の工程

- I. 埋立区域を囲む護岸を築造
- II. 埋立区域内を博多港の航路整備等で生じた浚渫土(主に粘性土)により埋立
- III. 浚渫土は、水分を含んでいるため、排水管の役割を果たすプラスチックボードドレーンを土中に打設し、重しとなる載荷土により圧密排水
- IV. 十分な水抜きが完了し、地盤が安定したら、載荷土を撤去し、工事完了



■地盤条件等

- 地盤高は、博多港基本水準面(DL)から+5.0m~+6.0m程度です。
※博多港基本水準面(DL)は、TP(東京湾平均海面)-0.97mです。
- N値50以上の層は、博多港基本水準面(DL)から-15.0m付近以深です。
(近傍地の値です)
- 地盤の地耐力は、1.0t/m²(※残留沈下10cm以下)を想定しています。
なお、土地造成時の土質に関する報告書(平成8、9年度)を閲覧することが可能です。
※残留沈下...計画荷重(1.0t/m²)を載荷した場合に見込まれる将来沈下量

土質や数値についてはあくまで目安ですので、詳細につきましては、事業者にて現地調査を実施のうえ、ご確認ください。